

文久四年二月十二日より文久四年二月十二日まで

P8310688right

鋸を用いて切取る也、其他月に振れざる手数失費許多（アマタ）なるべし○偶得、離郭
旬餘幾客程北風捲雪乱縦横今宵投宿何邊

処（駅）銀世界中不夜城

十二日 未 薄陰

朝二十六度（氷点下摂氏3度） 昼四十五度（摂氏七度）

朝餐にも魚切身の吸物と青昆布と山葵の醤油漬、猪口を二の膳へ付く、この事よりの調□是迄
の宿は別で鄭重なり唯其の調味佳ならず、朝第五時前出立、当所町司役出役麻上下着也、小わ
ん

川手前に川渡役兩人出役す、黒沼村野立石鳥谷（いしどりや）小休、小休所は造築美麗なり、同所
に人

馬差配役出役す、郡山手前、道掃除の者出役し、同所入口に番所代官兩人麻上下にて

（郡山休）出役、町内に火の廻り役の者出為、第九字時半前同所（午）休所へ着、当所は商買の
家居も

粗悪休所も市店と軒を並べ門塀等無し、依て店先へ葭簀張（よしずばり）を以て仮に門塀構を設
け

P8310688 left

たり、此では失費甚だ以て安からず、第十時過出立、人馬差配役出役町外は、前代官兩人出役
磯森蝦夷守（*）稲荷社頭並津志田（盛岡市）町大国大明神社頭にて野立、城下森岡入口同心長
屋跡の家居数十軒

（森岡泊）有りし、夫より町は続き北上川船橋（廿五艘を軽索棧橋を掛け）を渡り、第三時過ぎ
同所旅宿へ着、町入口に町奉行、

中程に火の廻り役兩人船橋手前で船手頭下役旅宿手前に人馬差配役仕々に足軽居渡り、警
固し領主家来村の番所ニケ所、番人は麻上下にて中座旅宿広屋美麗なり、町家の躰惣応の
繁栄に見受けり、仙台城は国分町の粗頽頽（拮抗）の□数□□に覚える、紋左衛門、謹之助尋問
す、領主より旅

中尋問の使者差越す、例面会有りし趣に付、面せり使役沢里龍太郎、町奉行長山蔵五郎尋問す
留守居役菅佐伯、領主口上を以、紋□壱

（贈物）壱□カタクリ壱箱金五百疋用役へ式百疋持参に付、再応限^りをびし処、是迄通行の諸
是迄通行の諸口役人差上げ来り、先例に付□受納ありし様申し候間、先つ願い置く、前
書領内付添の役二三人をも来る面会す、供膳猶此事の如く焼□蒲鉾、生薑梅漬一皿、鮎

*1蝦夷守は無かった。

（）内は細字双行（一行に小さい文字で二行書き）などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。